



実用新案登録願 (1)

昭和50年5月28日

特許庁長官 藤 英 雄 殿

1. 考案の名称 レイトワソウチヨウ カン  
冷凍装置用たわみ管
2. 考案者 クサソシヒガシクサツ  
滋賀県草津市東草津2丁目5番40号  
サ トウ サトル  
佐 藤 菩
3. 実用新案登録出願人

住 所 大阪市北区梅田8番地 新阪急ビル  
氏 名 (285) ダイキン工業株式会社 2年制除  
名 称  
(国 籍) 代表者 山 出 稔

4. 代 理 人 〒550

居 所 大阪市西区京町堀2丁目35番地  
氏 名 天眞ビル 706号室  
電話 大阪(06) 441-3720番  
弁理士 宮本 泰一

5. 添付書類の目録

- |           |     |
|-----------|-----|
| (1) 明 細 書 | 1 通 |
| (2) 図 面   | 1 通 |
| (3) 委 任 状 | 1 通 |
| (4) 願書副本  | 1 通 |

方 式 審 査



50 072279

## 明 細 書

### 1. 考案の名称 冷凍装置用たわみ管

### 2. 実用新案登録請求の範囲

冷凍装置の冷媒回路中に使用する配管であつて、管軸方向の断面形状がらせん状または蛇腹状の波形をなす雙付薄肉金属管(2)を両端の接続用直管(4)(4)間に連続して有し、かつ前記雙付薄肉金属管(2)の外周にゴム被覆(3)を被着させていることを特徴とする冷凍装置用たわみ管。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は冷凍装置用配管に係り、詳しくは振動緩衝用として、また配管工事の簡便さをはからせるために冷媒回路中の一部に使用させるたわみ管の新規な構成に関する。

冷凍装置においては、振動発生源としての圧縮機と、固定された冷媒配管とを直接々接続せず、たわみ管を介して接続することが従来から汎く行なわれている。

これは圧縮機で発生した振動が建物に伝達してこれを振動させたり、配管系統に直接伝播して接

配管所での冷媒漏れを生じたりする不都合を排除し、また、普通の金属配管では行ない難い屈曲工事が簡単にできるなどの点から使用されているのであるが、従来のたわみ管は第1図および第2図に示すような特殊構造の管体を成していて、先ず第1図のものは製付金属管(2)'の外周に金網被覆筒(7)を被着し、両端をロウ付して、これを冷媒配管(6)と溶接々合するようにしたものであつて、また第2図のものは製付の銅管(2)'を使用して、同様に冷媒配管(6)と溶接々合するようにしたものである。

ところが前者のものは柔軟性においてすぐれているが金属細線を編組してなる被覆筒(7)が非常に高価であり、また製付金属管(2)'との固着手段に手間がかかるし、防錆処理を施さなければならない面倒なこともあつて汎用品には不向きであり、一方後者のものはコストを低減し得る点において前者に優るが、耐圧強度を製付銅管(2)'に持たさねばならないので肉厚が可成り厚くなつて柔軟性が害なわれるという根本的欠陥を有していた。

本考案はかかる事実に着目して従来の此の種た

わみ管の有する欠点を補完し、柔軟性および耐圧強度にも十分すぐれた特性を発揮することが可能で、さらに安価な冷媒装置用たわみ管を提供しようとして成されたものであつて、特に管軸方向の断面形状がらせん状または蛇腹状の波形をなす嬰付薄肉管を両端の直管部に連続して有せしめると共に、この嬰付薄肉管部の外周に適当な素材で適宜厚に形成させたゴム被覆(3)を被着させたことを特徴とする。

以下さらに本考案を添附図面に示す実施例にもとづいて説明すれば、第3図において(6)(6)は冷媒装置における冷媒用金属直管であり、両直管(6)(6)間に介設して接続させたたわみ管(1)は本考案に係る配管を示すもので、管軸方向の断面形状がらせん状または蛇腹状の波形をなす嬰付薄肉金属管(2)を両端の接続用直管(4)(4)の間に連接して一体に有しており、この管は例えば銅を素材として引抜きおよび押型成形により継目が無い一連の管に形成される。

そして上記嬰付薄肉金属管(2)の外周にゴム被覆

(3)を被層させている。

ゴム被覆(3)は低温・高温に対して耐熱性を有する合成ゴム例えばポリエーテルゴム、スチレンブタジエンゴム、クロロブレン等を素材として鑢付薄肉金属管(2)表面に適宜厚さで直接成層させている。

上記構成のたわみ管(1)はゴム被覆(3)が弾性を有し、かつ耐圧強度においてもすぐれているので、保護被覆層としての役割りを十分保持しつつ柔軟性も良好であり、従つてゴム被覆(3)との関連を考慮して鑢付金属管(2)の肉厚を可及的に薄く形成させることができ、その結果として柔軟性にすぐれ、耐圧強度の大なるたわみ管(1)を得ることが可能となる。

次に第4図<sup>に</sup>示すたわみ管(1)は同じく本考案に<sup>に</sup>訂正係る配管であつて、前配例と同要領で製作された鑢付薄肉金属管(2)の外周に外觀が丸直管を成すようゴム被覆(3)を被層させた構造を有し、ゴム被覆(3)部における耐圧強度を増大させるため、その層内に金属線よりなるコイル(5)を埋設させており、

髪付薄肉金属管(2)の肉厚を前記例に比しさらに薄く形成させ柔軟性に富むようにしたものである。

なお、このたわみ管(1)は、髪付薄肉金属管(2)の周りに稍々内径の大なるコイル(5)を被嵌させた後、モールド内に納めて次いで被覆させるためのゴム層をモールド成型することによつて容易に製作が可能である。

本考案は叙上の説明から明らかなように、冷凍装置の冷媒回路中に使用する配管(1)を、管軸方向の断面形状がらせん状または蛇腹状の波形をなす髪付薄肉金属管(2)が両端の接続用直管(4)(4)間に連続して形成されかつ、該金属管(2)の外周にゴム被覆(3)が被着された構成としたから、ゴム被覆(3)自体が耐圧性と柔軟性とを兼備していることから、総合的に見て、耐圧性と柔軟性とが共に良好となる如きたわみ管を簡単に製作することが可能であつて、これを第1図々示の従来たわみ管と比較してみると、被覆部が低廉かつ成型容易なゴム層からなる本考案たわみ管の製作コストは遙るかに安価であつて耐圧・柔軟の両特性を同等に保たせ得

ることは云うまでもなく、一方、第2図々示のものと比較して見ても剛性材からなる巻付管の肉厚を従来に比して薄く形成させることができるので、柔軟性において殊に優れる効果を奏する。

特に本考案たわみ管は、圧縮機と接続させる吸入側管として使用したときに、防熱・防露工事を行ない必要がある吸入側管であつても、ゴム被覆(3)が断熱性能を有しているので、かかる断熱工事を省略でき現地工事の簡略化がはかれる利点を有している。

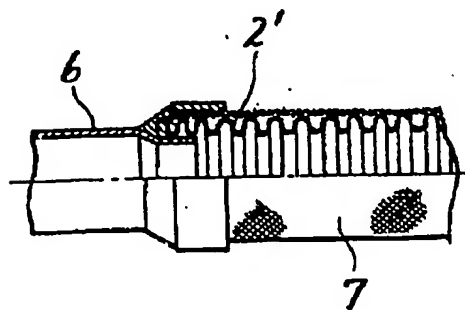
#### 4 図面の簡単な説明

第1図、第2図は従来の冷凍装置用たわみ管の各例の一部断面外観図、第3図および第4図は本考案たわみ管の各例に係る一部断面外観図である。

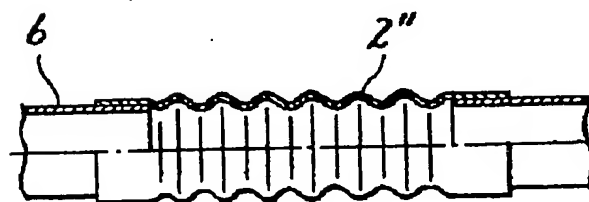
(2) …… 巻付薄肉金属管、 (3) …… ゴム被覆、

実用新案登録出願人 ダイキン工業株式会社

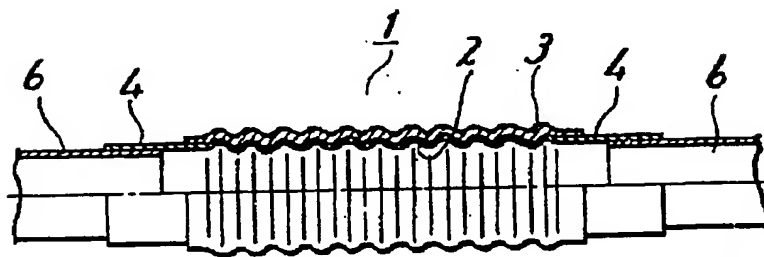
代理人 宮 本 泰 一



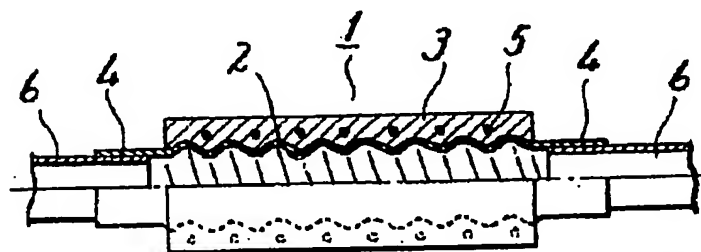
第1図



第2図



第3図



第4図

実用新案登録出願人  
代理人

ダイキン工業株式会社  
宮本 泰一

1505・1